

令和7年7月10日

報道機関各位

けいはんな万博 2025 運営協議会

**7月28日(月)～8月3日(日)、大阪・関西万博の
関西パビリオン京都ブースに「けいはんな万博 2025」が出展します**

「けいはんな万博 2025」及びけいはんな学研都市の取組を広く知っていただくため、7月28日(月)からの一週間、大阪・関西万博の関西パビリオン京都ブースに出展します。

5月に開催したロボット・アバター・ICT フェスティバルや6月のウェルビーイングフェスティバルの内容等を、けいはんな万博前半の総集編として「人間拡張」「VR」「食」のキーワードでまとめ、年齢や国籍を問わず、幅広い方々に、けいはんな学研都市が提案する「未来社会への貢献～次世代への解～」に触れていただきたいと考えています。

アバターの操作やVRを体験したり、食に関する最新技術を見ていただけます。

記者の皆さまにおかれましては、ぜひ取材していただきますようお願いいたします。

記

- | | |
|--------|---|
| 1.日 時 | 2025年7月28日(月)～同年8月3日(日)
毎日午前9時～21時まで開館 |
| 2.場 所 | 2025年大阪・関西万博 関西パビリオン 京都ブース |
| 3.実施主体 | けいはんな万博 2025 運営協議会 |
| 4.展示内容 | 主な展示内容は、下記のとおり。 |

【人間拡張】

●NPO 法人けいはんなアバターチャレンジ

夢洲の会場からけいはんな地域内にいるアバターロボットを遠隔操作して観光を体験する。【土・日のみ体験可】



●株式会社 CCH サウンド

第三の聴覚経路「軟骨伝導」を利用した未来の「聴こえ」により、医療・福祉分野をはじめ様々な分野で新たな可能性を切り開く。【試聴可】



●四條畷市田原支所

高齢化が進む中で、自動運転を活用した移動支援など自動運転技術を起点とした地域主体のまちづくりの取り組みを紹介。

●株式会社 SHIN-JIGEN

重量物の運搬作業等の際に作業者の負担を軽減するため、電動モータやセンサーを搭載した装着型のロボット(電動アシストスーツ)を展示。【試着可】



●奈良学園大学

VRゴーグルを装着しバーチャルで筋力を増強する未来のリハビリテーションを体験。【土・日のみ体験可】

【VR】

●工学院大学

特別に撮影した写真や全天球画像をVRの中に取り込んで、都市を空から観光したり、都市の構造を学ぶことができる。【月～金のみ体験可】

●奈良県立医科大学/MBT コンソーシアム

医学を基礎とするまちづくり(Medicine-Based Town)や、医学的知見に基づく製品やサービスの開発等の取組を紹介。



●株式会社 Universal Robot Lab./工学院大学

けいはんな学研都市で災害が発生した時に、どう行動し避難したらよいかをVRの中でシミュレーションし学習する。【月～金のみ体験可】

●ゆずプラス

自分が関心を持っていることを探究するため、仮想空間内をアバターで移動し、その中で資料収集から制作、発表、展示までが完結する「未来の教育」の形を紹介。

【食】

●金沢工業大学

「テーブルプロジェクション」を活用して、日本の里山の稲作、田植えや祭りなどの文化を観察。【土・日のみ体験可】

●京都光華女子大学

「食のバリアフリー」をめざし、食べる力の低下した高齢者にも食べやすい和菓子や、美しさと使いやすさを両立した伝統工芸の介護食器を提案。【試供品の提供あり】



●東レ建設株式会社

高床式の砂栽培により、楽な姿勢で農作業を行うことができ、特別な農具も培地の廃棄も不要なので、ご高齢の方や車いすの方でも安全・安心に野菜の栽培に取り組める。



●未来食研究開発センター株式会社

新しい矮性イネ「京のゆめ」は生育期間が短く、屋内栽培が可能なので、環境変動に左右されず誰でもどこでも農業が可能になり、未来の食糧生産を支える。



★展示内容は、諸般の状況により変更する場合があります。

問い合わせ先

けいはんな万博 2025 運営協議会

(公財) 関西文化学術研究都市推進機構内 中居、松村

0774-98-2245、info@keihannaexpo.org